慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	特集1：近代日本の外交：解題
Sub Title	Special issue I : Diplomacy in modern Japan
Author	『近代日本研究』編集委員会("Kindai Nihon kenkyu" henshu iinkai)
Publisher	慶應義塾福沢研究センター
Publication year	2011
Jtitle	近代日本研究 (Bulletin of modern Japanese studies). Vol.28, (2011.) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集1：近代日本の外交
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20110000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

解題

近年の我が国においては、近代日本の外交、および、アジア圏の外交史に関する研究が、著しい発展を遂げてきた。冷戦が終結して二十年あまりが経ち、日本の安全保障をめぐる環境が激変して対アジア外交の重要性が向上する中、日中、日韓、日朝、日台、あるいは日満蒙の外交関係を歴史的・実証的にあきらかにしていく作業は、周辺諸国の外交政策の歴史的研究とともに、大いに発展させていく必要に迫られ、日本の外交史研究者たちはそれに答え、豊穣な成果を社会に送り出してきた。

その一方、主要な学会においては、理論・方法論研究や現代政策・比較政治分析などに圧迫されて、外交史関係のセッションが組まれることが少なくなっているという現状がある。福沢諭吉や慶應義塾のみならず、広く、近代日本の研究を目的として設置されている慶應義塾福沢研究センターの機関誌たる本誌としては、かかる状況に鑑み、外交史研究の第一線で活躍している研究者に寄稿していただき、誌上において最新の研究成果を公にする「セッション」を提供したいと企図し、本特集を組んだ。これに応じて寄稿して下さった栗原純、森山茂徳、中見立夫、高橋勝浩、岡本隆司の各氏は、いずれも我が国を代表する外交史家であり、その諸論考

によって、我が国外交史研究がさらに一歩、進展するものと確信するものである。ご多忙のなか寄稿していただいた各氏にあつく御礼申し上げるとともに、これによって本誌がその役割の一端を果たすことを、願ってやまない。

『近代日本研究』編集委員会